

記入日：令和2年7月17日

所在地（都道府県/市町村）：北海道岩見沢市		
法人名：社会福祉法人 空知の風		
施設・事業所名：きっちんどう	担当者名：横田 雅之	
事業種類：就労継続支援事業B型・生活介護		
主たる障害：知的障がい	令和2年3月末現在 定員： 20 人	
TEL:0126-35-1870	FAX:0126-35-1871	E-mail: kitchen- dou@sorachinokaze.jp

① 令和元年度までの主な取り組み内容

- ・ 米飯製造販売～弁当の製造、販売

② 施設・事業所における新型コロナウイルスの影響

利用者受け入れの面は、体調不良者などコロナ症状との判断が難しい利用者の受け入れは、事業所としてクラスターを起こしかねないこともあり、実施機関とも連絡調整し、体調回復後3日間など在宅支援を届出し、給付請求について柔軟に対応をもらっている。

生産活動では、新型コロナウイルス対策が進められるにつれ、これまで受注のあったイベント・大会・学校関係の行事・会議等の中止の連鎖で、1回50個以上まとまった数の弁当受注は、今年度（4月以降）、皆無な状態。現在はこれまでご利用いただいている個々の顧客を中心に作業は継続しているが工賃減は避けられない状況。

③ コロナ下において新たに始められた取り組みの内容

事例タイトル：今こそ福祉事業所同士の製品取引を

取り組み内容：

コロナ下で始めた取り組みではありませんが、改めて「今こそ福祉事業所同士の製品取引」は有効だと実感しています。

当法人・事業所は予めから取り組みを行なっていることですが、弁当メニューに他法人の事業所で製造している商品を取り入れ、最終調理を行ない、弁当として販売を行なっています。また、利用者の昼食提供のメニューの中にも取り入れ、他法人の事業所の製品を使用させていただいています。反対に、当事業所の製品を昼食提供に使用していただくことは、コロナ前も現在も大きな変化なく相互に継続できています。

④ ③の取り組みを始めたきっかけ・工夫した点

生産活動での工賃向上を掲げられてから少しずつ取り組みを拡げ、既に7年くらい実施しています。

効率よく受発注を進めることや売り上げの向上に有効だと法人として積極的に取り入れました。

⑤ 取り組みの効果（売上や顧客、利用者、職員、地域等における効果）

現在、全国で40法人70事業所を超える繋がりで行われ、年間で600万円前後の売買が生産活動を中心に行なわれています。

初めは、限られた職員による繋がりだったものが、継続する取り組みの中で、法人・事業所の現場職員へと繋がり裾の尾を拡げ、利用者や地域のお客様へ全国からの商品を紹介できる取り組みとなっています。

⑥ ③の取り組みを開始するにあたり新たに導入した生産設備・備品（経費・財源）等

経費は、送料負担。設備備品は不要。

これまで一般企業などで購入していた商品を少し割高に感じることもあっても、事業所の商品購入へ切り替える相互理解が必要。

販売の面では、商品の質を購入事業所として納得してもらえる水準まで届かせる努力。

⑦ 今後の課題・展望

現在、新型コロナウイルス感染防止のため、事業所の新たな出会いを創ることは難しい状況ですが、近隣やSELP会員を通してすでに人脈のあるところの一つでも実践を拡げていただくとどんな状況下でも各々の繋がりの中で安定した生産活動や利用者支援が展開できていきます。「今こそ福祉事業所同士の製品取引」の実践を進めてみてはいかがでしょうか。



▼近隣の他法人の事業所の生産しているキジを弁当にした商品



▼東京の他法人の事業所の生産しているあわびを昼食提供で使用



▼昨年の地域交流祭（事業所のお祭り）

